

## 建築研究開発コンソーシアム 2023年度通常理事会・通常総会

建築研究開発コンソーシアムは2023年6月30日に学士会館にて2023年度通常理事会・通常総会を開催いたしました。主要会員の株主総会の開催形式に準じて開催し、全ての審議議案が承認されました。以下に総会での澤地孝男会長のご挨拶と国土交通省住宅局住宅生産課山下英和課長のご挨拶の要旨、並びに、懇親会での澤地孝男会長のご挨拶、国土交通省住宅局塩見英之局長のご挨拶、村上周三特別顧問のご挨拶、および作尾徹也副会長のご挨拶の要旨を掲載いたします。

### 挨拶要旨

建築研究開発コンソーシアム  
澤地 孝男 会長



建築研究開発コンソーシアムでは、この4年間リアルとオンラインの併用などによって継続して活動してきたところですが、今回の総会は、4年ぶりに会場での対面のみでの開催になりました。

皆様もご存知の通り、昨年7月25日に創立20周年を迎え、この2月8日には記念事業として、南雲岳彦先生、藤本隆宏先生のお二方をお招きして記念講演会を開催し、多くの方々のご参加をいただいたところです。

当コンソーシアムの活動としては、昨年度はこれまでで最多となる33の研究会在活動され、累計で200を超える研究の場が形成されました。今後ともカーボンニュートラル、DX、安全・安心、災害対応といった経済社会の大きな課題を見据えながら、産官学の連携、異業種・異分野の連携による研究開発のプラットフォームという当コンソーシアムならではの長を活かして、活動をすすめてまいりますので、引き続き皆様のご支援とご協力をお願いいたします。

最後になりましたが、建築研究開発コンソーシアムの発展への祈念と、ご出席いただきました皆様方に感謝いたしまして、私からの冒頭のご挨拶とさせていただきます。



### ご挨拶要旨

国土交通省 住宅局 住宅生産課  
山下 英和 課長



本日は建築研究開発コンソーシアムの通常理事会・通常総会にお招きいただきありがとうございます。本日出席の皆様方には、日頃より建築・住宅行政の推進にあたり、ご理解ご協力を賜っておりますことを厚く御礼申し上げます。

建築や住宅技術に関する研究開発は、安全・安心で質の高い生活の実現や、良好な環境の保全・創出など、大変重要な社会的役割を担っています。貴コンソーシアムにおかれましては、平成14年の創立以来、20年以上の長きにわたり、産官学連携、異業種・異分野連携による研究開発のプラットフォームとして、多様な研究機関や企業などが幅広く結集して研究開発を進める体制を整備してこられたことに、深く敬意を表します。また、研究開発人材育成プログラムや若手技術者交流会などを通じて、建築・住宅技術の研究開発に関する人材育成にも取り組んでいただいておりますことに深く感謝申し上げます。

さて、現在の建築・住宅分野におかれている状況を見渡しますと、実に様々な課題があり、建築・住宅技術に関する研究開発や人材育成を通じて対応していくことが期待されています。

まず、地球温暖化対策として、2050年カーボンニュートラルの実現に向け、住宅・建築分野においては、2050年にストックの平均でZEH・ZEB水準の省エネ性能の確保を目指すことになっており、それに先駆けて2030年には、新築についてZEH・ZEB水準の確保という高い目標の実現に向けて、引き続き取り組みを進めていかなければならない状況です。昨年6月には、建築物省エネ法が改正され、2025年までにすべての新築住宅・建築物に対して省エネ基準への適合を義務付け、さらに2030年度までにこれをZEH・ZEB水準まで引き上げていくとされたところです。併せて、住宅性能表示制度において、それをさらに上回る高い基準なども設定して既に施行しています。

加えて、昨年度の補正予算において、経済産業省、環境省とも連携して、省エネ性能の高い住宅の新築やリフォームに

## (山下英和住宅生産課長 ご挨拶要旨 (続き))

対し、これまでにない事業規模で思い切った補助制度を用意させていただき、順調にご活用いただいております。住宅・建築物における省エネ化を推進するため、国土交通省におきましては、規制と支援の両面から引き続きしっかりと取り組みを進めてまいります。

また、これまでの取り組みは、住宅・建築物の使用段階でのエネルギー消費量を削減して、CO<sub>2</sub>排出量の削減を進めるというものでしたが、さらに資材の製造や建設段階におけるCO<sub>2</sub>排出量の削減、長寿命化などによるライフサイクル全体を通じたCO<sub>2</sub>排出量の削減に取り組む必要があります。こうした取り組みの推進に当たっても、建築・住宅技術の研究開発の進展に期待するところも大きく、引き続き貴コンソーシアムの皆様方のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

温室効果ガスの吸収源対策の観点からは、住宅や建築物において、木材利用の一層の拡大を図る必要があります。とりわけ、中高層の住宅・建築物における木材利用の推進が求められており、これには技術開発の進展が期待されることです。昨年、建築物省エネ法の改正と併せて、建築基準法も改正され、大規模建築物の木造化促進のための防火規制の合理化などさせていただき、来年度の施行に向けて引き続き準備を進めてまいります。大規模建築物の木造化につきましては、こうした規制の合理化に加えて、木造化の普及に貢献する優良なプロジェクトに対する支援を令和四年度予算で創設したところであり、引き続きこうした大規模・中規模の木造建築物の普及に取り組んでまいりたいと考えています。

木材利用に関する最近の動きを申し上げますと、5月30日に花粉症に関する関係閣僚会議があり、花粉症対策の全体像が取りまとめられました。一見我々の分野に関係ないように

思われますが、この対策の三本柱として、発生源対策、飛散対策、発症・曝露対策があり、このうち発生源対策としては、花粉の発生源となりますスギ人工林の伐採・植替えを加速化するため、住宅・建築物の分野において、このスギ材を大いに活用していくという需要の拡大が求められており、引き続きこういった取り組みを進めてまいりたいと考えています。

この他にも、近年、災害が激甚化・頻発化している中で、住宅・建築物における安全性の確保は引き続き重要な課題であり、IT活用をはじめとした新技術の実装・デジタル化を進めて、住宅・建築業界における生産性の向上を目指す必要もごございます。また、こうした課題に対応するとともに、住宅・建築物の質を高め、より一層魅力的なものとしていくためには、建築・住宅技術に関する研究開発を推進して、その成果を活かし、さらに質の高い住宅・建築物の整備を進めていくことが重要でございませう。

貴コンソーシアムにおかれましては、今後とも住宅・建築技術に関する研究開発や人材育成を通じて、我が国の建築、住宅業界を先導していただきますようお願い申し上げます。結びに、貴コンソーシアムの益々のご発展と本日ご出席の皆様方のご健勝を祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。



## 懇親会・挨拶要旨

### 挨拶要旨

建築研究開発コンソーシアム  
澤地 孝男 会長



本日の通常理事会・通常総会が皆様のご協力のもと、つつがなく終えましたことをご報告させていただきます。本日の理事会で特別顧問に再任されました元会長の村上周三様、そして前会長の緑川光正様のお二人が、長年の功績が認められ、今年春の叙勲で栄えある受章をされました。村上周三様は瑞宝重光章を、緑川光正様は瑞宝中綬章を受章されましたこと、お祝い申し上げます。

会長をお務めいただいたお二人の受章は、建築研究開発コンソーシアムにとっても喜ばしいできごとであり、お二人の益々のご活躍をお祈りいたします。

昨年度、当コンソーシアムは創立20周年を迎えました。この間、産官学の連携や異業種・異分野連携による研究開発の基盤となる「場」づくりを目指してまいりました。今後とも、多様化する建築・住宅のニーズに併せて「研究開発のプラットフォーム」として活動してまいりますので、引き続き皆様方のご支援、ご協力をお願いいたします。

コンソーシアムの今後の発展と皆様のご活躍を祈念いたしましてご挨拶とさせていただきます。



## ご挨拶要旨

国土交通省 住宅局  
塩見 英之 局長



建築研究開発コンソーシアムの皆様、コロナ禍も明けて、こうして皆様と親しく、この懇親の場を持てることを大変うれしく思います。また、日頃から皆様方には、建築行政に対して深いご理解と力強いご支援を賜っていますことにお礼を申し上げます。本当にありがとうございます。

貴コンソーシアムは昨年創立20周年を迎えられ、この間、村上先生を先頭に研究開発の推進、そして民間、それから官民通しての研究開発に対する予算確保などに大変な力を発揮いただけてまいりました。この20年を振り返りますと、役所も、また民間も非常に厳しい時代であったと思いますが、その中でも皆様方が研究開発を滞りなく力強く進めていただいたおかげで、様々な技術分野で進歩がこれまでも図られてまいりました。このことにつきまして、本当に皆様方のお力あってのことだと、国土交通省を代表して心より敬意とお礼を申し上げます。本当にありがとうございます。

皆様方に対する社会からの期待と信頼は大変大きいものが今

なおあると思います。分野を挙げますと、やはり何と云っても、まずはカーボンニュートラルであり、技術革新をまだまだ進めていかないと乗り越えられない大きな課題です。それから高齢化が益々進展する中で、国民の皆様が豊かに安心して暮らせる住まい・建築物をどう確保していくのか、これもまだまだ開発研究をしていかなければならない分野があると思います。子育て支援・若い方の住まいの確保支援、こういう分野もより光を当てて政策の充実を図らなければいけない時代となりました。さらには木造化、それから住宅の長寿命化、さらにはDXというふう新しい風も続々と生まれてきております。こういった技術分野での課題をクリアして、さらに豊かな国民生活を実現していくためには、皆様方のお力に頼るしかありません。どうか、これからも皆様のご活躍をお願い申し上げ、国民の一人として、皆様の活動に心よりご期待を申し上げたいと思います。

結びになりますが、貴コンソーシアムがさらに活動を活発にされ、産学官の研究開発が進み、そして建築業界の技術人材の確保育成が進みますことを心より祈念申し上げます。そしてお集まりの皆様方のご健勝、これも心よりご祈念申し上げます。私からのお祝いのご挨拶とさせていただきます。

本日は本当におめでとうございます。

## 挨拶要旨

建築研究開発コンソーシアム  
村上 周三 特別顧問



総会で山下住宅生産課長からライフサイクルカーボンの話がありました。これは脱炭素の大きな話題です。建築の分野では永年、省エネという形で脱炭素を図ってきました。これは世界中同じで、オペレーショナルカーボンといいます。要するに建物の運用段階で発生するCO<sub>2</sub>をどう減らすかということです。今、世界で話題になっているのはエンボディドカーボンで、建物を造る時に発生するCO<sub>2</sub>です。

オペレーショナルカーボン対策にはほぼ目途が立った今、欧米を中心に世界中の脱炭素の話題がこれに移っているという状況です。このエンボディドカーボンは、建材・工法・輸送など、あらゆる産業分野に係る非常に幅の広い課題であります。サプライチェーンの上流から下流まで全部関わってくるわけです。こういうテーマの解決には、異業種連携が必要であり、このコンソーシアムの活動に適した課題だと思います。

今、DXの嵐の中で、建築・住宅分野にたくさんのイノベーションが求められています。こういう時にこそ新しいイノベーションの目は、異業種交流の接点から生まれると期待しています。昨年20周年を迎え、今後10年、さらに20年と今後一層の進歩を期待しています。

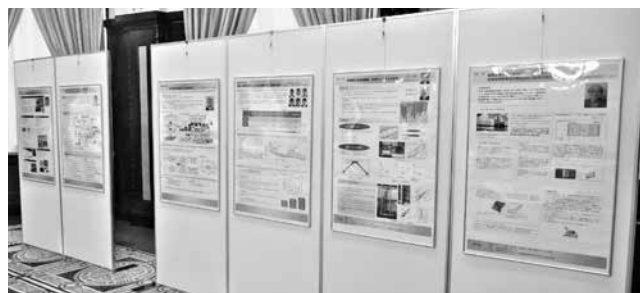
## 挨拶要旨

建築研究開発コンソーシアム  
作尾 徹也 副会長



本日は理事会・総会、そして4年ぶりの開催となったこの懇親会まで、本当に多数ご参集いただきありがとうございます。

先ほど塩見住宅局長のお話もありましたが、我々を取り巻く環境は、カーボンニュートラルや自然災害に何とか対応しなければいけない、また脱炭素を含め環境負荷をもっと下げるために、ZEH・ZEB、また建築再生など、そういうことを取り組んでいかなくてはならない状況にあります。そんなことをやる時には、私も一技術者として、どこかでイノベティブな活動をやっていかないといけない、その時には産学官が手を組まない新しいことは生まれえないと思っています。そういう「場」がまさに本コンソーシアムであると思っています。多くの課題があり、アゲンストの風が吹けば吹くほど、本コンソーシアムの存在価値が上がり、やる気が出る場所であり、そういうところに参加させていただいて非常に今、幸せです。今後もさまざまな風が吹くことになるとは思いますが、このコンソーシアムの「場」を、皆様との積極的な発言の場とし、議論をし、多くの課題に太刀打ちしていきたいと思っておりますので、改めてよろしくお祈りいたします。



## 委員会の活動内容

当コンソーシアムは、理事会の下に運営委員会を置くほか、本会の目的達成に必要な事業を行うために、理事会の議決を経て、以下の委員会を設けています。

### 運営委員会

役割：建築研究開発コンソーシアム規定に基づき、理事会から委譲を受けた事項について議決する他、コンソーシアムの運営上必要な事項を審議することを役割としています。

|                        |                        |
|------------------------|------------------------|
| 委員長 福山 洋 (国研)建築研究所     | 委員 木村 隆 三菱ケミカルインフラテック㈱ |
| 副委員長 田中 敏英 大阪ガス㈱       | 委員 梅田 博之 ミサワホーム㈱       |
| 委員 湯浅 憲 高砂熱学工業㈱        | 委員 黒岩 秀介 大成建設㈱         |
| 委員 村江 行忠 戸田建設㈱         | 委員 柳橋 邦生 ㈱竹中工務店        |
| 委員 落合 まみ (一財)日本建築センター  | 委員 伊藤 大輔 旭化成ホームズ㈱      |
| 委員 小南 和也 (一財)日本建築総合試験所 | 委員 武井 利行 (国研)建築研究所     |
| 委員 寺沢 太沖 日本製鉄㈱         | 委員 吉岡 清 佐藤工業㈱          |
| 委員 加藤 正宜 (一財)ベターリビング   |                        |

### 交流推進委員会

役割：交流推進委員会は、会員に有益な情報を、ホームページ、ニューズレター等の媒体や、講演会、見学会等の手段を用いて提供する事業及び会員間での情報共有や会員相互の情報交換の場を設けることを通じて、会員の交流を推進する事業等を実施することにより、会員が受けるメリットを向上させるための業務を展開し、コンソーシアムの活性化に資することを役割としています。

|                   |                              |
|-------------------|------------------------------|
| 委員長 梅田 博之 ミサワホーム㈱ | 委員 内海 一郎 積水化学工業㈱             |
| 副委員長 黒岩 秀介 大成建設㈱  | 委員 吉田 元紀 積水ハウス㈱              |
| 委員 与謝 国平 ㈱大林組     | 委員 井上 雅之 ㈱長谷工コーポレーション        |
| 委員 依田 和久 鹿島建設㈱    | 委員 田村 俊樹 パナソックハウジングリノベーションズ㈱ |
| 委員 洲上 勝志 五洋建設㈱    | 委員 山崎 良一郎 吉野石膏㈱              |

### インキュベーション委員会

役割：インキュベーション委員会は、これからの研究開発の担い手となる若い人材の育成を会員が協働して支援するスキームや、異業種の研究者、技術者等が主体的に参画し自由に議論することを通じて新たなアイデアや技術開発の種を生み育てる場を提供する事業等を実施することにより、コンソーシアムの活性化に資することを役割としています。

|                       |                      |
|-----------------------|----------------------|
| 委員長 柳橋 邦生 ㈱竹中工務店      | 委員 鈴木 正美 新菱冷熱工業㈱     |
| 副委員長 伊藤 大輔 旭化成ホームズ㈱   | 委員 田中 康夫 住友林業㈱       |
| 委員 鈴木 好幸 ㈱安藤・間        | 委員 玉田 真人 大和ハウス工業㈱    |
| 委員 上山 耕平 (一財)建材試験センター | 委員 西野 安則 パナソック ホームズ㈱ |
| 委員 山田 哲弥 清水建設㈱        | 委員 赤尾 伸一 三井住友建設㈱     |

### 研究開発推進等委員会

役割：研究開発推進等委員会は、自主性や競争的な研究開発環境を尊重しつつ、日頃交流する機会が少ない異業種の企業が共同して研究開発を推進する場や、会員の人的・経済的資源を有効に活用できるような研究開発のスキームを用意するとともに、コンソーシアムの諸活動の成果や、会員が有する技術等を会員のみならず広く社会に還元するため、国への働きかけや関係機関からの業務受託を推進することにより、もって会の活性化に資することを役割としています。

|                     |                     |
|---------------------|---------------------|
| 委員長 武井 利行 (国研)建築研究所 | 委員 唐澤 智之 鉄建建設㈱      |
| 副委員長 吉岡 清 佐藤工業㈱     | 委員 山田 秀之 東京ガス㈱      |
| 委員 上 寛樹 ㈱奥村組        | 委員 桑原 太刀男 (独)都市再生機構 |
| 委員 住 学 ㈱鴻池組         | 委員 佐々木 聡 ㈱フジタ       |
| 委員 平田 茂良 大和ハウス工業㈱   |                     |

詳細は、ホームページをご覧ください。https://www.conso.jp/

## 活動中の研究会 (2023年7月現在)

| No | 研究会テーマ  | 提案者           |
|----|---|---------------|
| 1  | 最小限界構造安全性能を有する建物を実現できる技術  | 伊 山 潤         |
| 2  | 5m超の軽量鉄骨下地乾式間仕切り壁の地震時損傷抑制に関する研究会  | 学 術 会 員       |
| 3  | 軽量鉄骨下地乾式間仕切り壁の地震時損傷抑制に関する指針 Ver.1 の改定                                       | 清 家 剛         |
| 4  | 巨大地震等対応防災拠点建築物集積エリア計画研究会  | 竹 内 徹         |
| 5  | 文理共創による研究開発研究会～研究課題発想と成果展開のための文系技術の利用～                                      | 藤 井 俊 二       |
| 6  | CLTを使った新しい木造住宅用構造システムの開発  | 古 田 智 基       |
| 7  | 中規模木造用高耐震・制震化システムの開発  |               |
| 8  | 2025年大阪・関西万博研究会   |               |
| 9  | 地震後の継続使用性を確保するための設備機器類の耐震設計評価手法に関する研究会                                      |               |
| 10 | 工事中の溶接・溶断火花が発泡プラスチック系断熱材に飛散して発生する火災の実態及び対策に関する研究会                           |               |
| 11 | 次世代鉄筋コンクリート造 (Next RC) の開発に向けた研究会～フェーズⅡ CO <sub>2</sub> 削減×高耐久化とRC造の要求性能の検討 | 建 築 研 究 所     |
| 12 | 建築基礎・地盤分野の持続的な研究開発を目指す若手勉強会フェーズⅡ  |               |
| 13 | 住宅の水害対策技術の開発・普及における基礎的課題の検討に関する研究会  |               |
| 14 | BIMを活用した火災安全検証の高度化・標準化に向けた研究会   |               |
| 15 | 中高層木造建築物の社会実装に資する技術研究会  |               |
| 16 | ミリ波・テラヘルツ波を用いた非破壊検査技術に関する研究会  | 熊 谷 組         |
| 17 | カーボンニュートラルに向けた非住宅系建物気密化のための制度実現化及び普及への提案                                    | 大 成 建 設       |
| 18 | 先端産業の未来を切り拓く次世代クリーンルームの微振動制御技術  | 竹 中 工 務 店     |
| 19 | 小規模建築物の地盤における不同沈下のリスク評価技術の研究  | 積 水 化 学 工 業   |
| 20 | 木質建材を外装仕上材に使用する際の耐久設計ガイドラインの構築  | 大 和 ハ ウ ス 工 業 |
| 21 | モバイルユニットを用いた被災地復興支援拠点の構築に係る要求仕様研究   | ミ サ ワ ホ ム     |
| 22 | 宅地既存擁壁背面地盤の補強工法の実用化に関する研究   |               |
| 23 | 鋼構造建築物の損傷評価と性能設計  | 日 本 製 鉄       |

## 20周年記念誌デジタルブック(電子版)

建築研究開発コンソーシアムは2022年7月25日に創立20周年を迎えた記念事業の一環として、本年度の理事会・総会時に「20周年記念誌」が発行されました。

記念誌には、第1章にコンソーシアムと関係が深い方からの寄稿文を掲載、第3章では、創立20周年記念講演の概要が収録されています。第2章にはコンソーシアムの活動概要が記されており、2013年度～2022年度の10年間の活動が俯瞰できる重要な記録となっています。

ホームページにデジタルブック「電子版」を掲載いたしましたので、是非ご覧ください。



(HPバナー表示)



(QRコード)  
https://conso.jp/  
20thAnniversary/  
cbrd20th\_book/

## 新会員・新事務局員の紹介

### 新会員 (※入会順)

#### 準 会 員

- 株式会社 日本システム設計  
代表者：三宅 辰哉  
所在地：東京都中央区日本橋人形町2-9-5

#### Ⅱ種情報会員

- 清原 俊彦氏 株式会社 堀江建築工学研究所

#### 学 術 会 員

- 古賀 一八氏 東京理科大学 総合研究院 火災科学研究所
- 藤沼 智洋氏 関東学院大学
- 西脇 智哉氏 東北大学大学院

### 新任事務局員



野秋 政希

4月より国立研究開発法人建築研究所防火研究グループとの併任で事務局にまいりました野秋政希です。建築火災性状、木造防火を専門としております。研究開発推進等委員会を担当します。皆様のお役に立てよう努めてまいりますのでよろしくお願いたします。

## CBRD News Letter 50号

発行日：2023年7月31日  
編 集：建築研究開発コンソーシアム 交流推進委員会  
発 行：建築研究開発コンソーシアム 事務局

## CBRD 建築研究開発コンソーシアム

〒104-6204 東京都中央区晴海1-8-12 トリトンスクエア Z棟 4階  
TEL：03-6219-7127 FAX：03-5560-8022  
E-mail：conso@conso.jp(代表) Home Page：https://www.conso.jp/